

会員制教育サポート・サービス Premier Edu サポートセンター 日米学校システムの違い

新学期が始まりました。初めて米国の学校に通うお子様、米国教育に慣れてきたお子様、そろそろ帰国予定のお子様、それぞれが持つ不安や疑問を Premier Edu へご相談ください。

<入園 / 入学>

米国の入園 / 入学手続きを経験した方は実感したと思います。が、日米の教育システムは大きく異なります。米国では、日本の様に「入学通知書」は郵送されてきませんので、入園 / 入学の責任は全て保護者にあります。また、州によって義務教育が始まる年齢が異なります。まず、お住まいの州では何歳から学校へ行かなければいけないのか、どの学校へ通うことになるのか、いつまでにどのような入園 / 入学手続きをしなければいけないのかを確認する必要があります。

❖ 手続き

お子様が入園 / 入学対象者であれば、保護者の方が学校へ出向き、申込み手続きをする必要があります。その際、健康診断、予防接種、歯科検診、英語能力テスト等、やらなければいけない事も多々あり、必要書類を揃えるのに時間がかかります。健康診断には視力検査や聴力検査も含まれている為、多少の英語力が必要となります。日本で予防接種を全て受けていても、必要な予防接種の種類や接種時期が米国で義務付けられているものと異なるものもあるので、健康診断の際に医師にご確認ください。また、英語能力テストの結果によりクラスが分けられ、ESL(English as a Second Language)と呼ばれる英語を母国語としないお子様のためのクラスを設けている学校もあります。このような入園 / 入学手続きに伴い発生する必要事項やクラス分けに関する確認の際に、学校とのコミュニケーションに困る保護者の方は少なくありません。そんな時は、お気軽に Premier Edu サポートセンターまでご連絡いただければ、申込書類の記入から、それに伴う必要事項の確認までお手伝い致します。

<進級>

すでに前学期から米国の学校に通われているお子様は、長い夏休みを終え、新学期を迎える時期です。英語習得、日本語維持、成績向上等、現在抱えている疑問や課題は、お子様の米国滞在期間や英語力、適応能力によって異なります。お子様をサポートする上で必要となる教育情報を的確に収集し、それぞれのお子様にあったサポートをすることが今後の進路にも大きく影

響するでしょう。お子様の事を一番理解しているのは、保護者の方です。しかし、米国の学校に通った経験のない保護者の方が、お子様の教育サポートをするのは大変な事だと思います。

❖ 英語習得中のお子様

全日制日本人学校へ通っていれば別ですが、現地校に通う多くのお子様にとって一番の難関は、「英語」ではないでしょうか。日本とは異なる教育システムに加え、学校でうまくコミュニケーションがとれないというのは、かなりの負担となります。保護者の方からお子様に、学校の仕組みやいざという時に使える英語等を教えてあげると、学校生活への不安も和らぎます。そんな皆様のために、Premier Edu ウェブサイトには、米国教育基本情報や役に立つ英単語を掲載しています。

❖ 成績向上

米国での学校生活に慣れ、英語でのコミュニケーションに困る事がほとんどなくなったとしても、英語力の向上がすぐに成績向上に繋がる訳ではありません。日本では、静かに授業を受け、テストの結果が良ければ、それが成績に反映されますが、米国では積極的に発言する授業参加態度や、エッセイ(英作文)、課題プロジェクト等、日本とは異なる基準で成績が決まります。そのため、現地校での成績を上げるためには、英語でのコミュニケーション能力やテスト結果に加え、クラスメートの前で発言する意欲、英語での作文力、想像力等も必要となります。このような日米の成績評価基準の違いから、日本から来たお子様が、現地校に完全に馴染むまでには、一般的に数年かかると言われてしています。その間、学業面や精神面の負担があまりにも大きく、保護者の方だけではサポートが困難な場合に備え、Premier Edu では教育専門カウンセラーとの個別相談もご用意しています。

❖ 日本語獲得

米国滞在期間が長くなると、英語の方が楽になり日本語力が衰えてきます。そのため、英語習得と共に日本語の維持にも力をいれる必要があります。特に、いずれは帰国する予定であったり、日本の大学に進学を考えているお子様の場合、帰国の際、